

## Ⅲ NWEC 実践報告

---

## 第7章

# キャリア形成支援プログラムをつくる 平成23年度の実施報告と平成24年度の企画

引間 紀江

### 1 はじめに

国立女性教育会館（以下、会館）では、会館の第2期中期目標および中期計画の期間に当たる平成18年度～22年度の5年間に、「女性のキャリア形成支援推進研修」を実施してきた。この研修は男女共同参画および女性教育に関する喫緊の課題を担当する指導者の資質・力量の向上を目指した先駆的・モデル的研修として位置づけられ、会館のこれまでの調査研究により得られた「複合キャリア」「社会活動キャリア」といった新たな知見やロールモデル分析などの手法を用いていたことなどが大きな特徴であった。

平成23年度からの第3期1年目からは、より多様なキャリア形成支援の主体と課題への対応を想定した「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」を実施している。これらのキャリア形成支援関連事業の実施の背景と企画の概要については『NWEC 実践研究』第2号第9章において述べたところである。

本稿は、23年度の実施報告から本研修における成果と課題を整理し、24年度の研修企画の概要と今後の展開について報告するものである。

## 2 平成23年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア研修」について

### 国の施策等との関連

会館の第3期中期目標では「Ⅱ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」「2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及」において、「男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題（例えば、女性の活躍による社会の活性化、様々な困難な状況に置かれている人々への対応、地域における身近な男女共同参画の推進、男性の家庭・地域への参画促進、生涯を見通した総合的なキャリア教育等）に関する調査研究を行い、その成果に基づき学習プログラムの開発や教材の作成等を行う。キャリア教育については、大学等と協働して取り組む」（太字は引用者による）となっており、本研修は「喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修」として、位置づけられている。

また第3次男女共同参画基本計画（平成22年12月閣議決定）における「第4分野 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保」の「5 多様な生き方、多様な能力の発揮を可能にするための支援」および「第11分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」に対応した研修となっている。

### 目的と特徴

研修の実施にあたっては、目的とねらいを、①一人一人が置かれた状況に応じて柔軟にキャリアを設計できるよう、多様化する個人のキャリアを男女共同参画の視点から社会と結びつけること、②長期的なキャリア形成支援に資するため、会館のこれまでの調査研究や実践で明らかになりつつある「複合キャリア」のとらえ方を知り、キャリア形成支援の今後の方向性について見通しをもつこと、③キャリア形成支援プログラムの立案、サポートシステムの構築等について学ぶこと、の3点とした。

この研修の大きな特徴としては、「複合キャリア」概念を取り入れ、職業キャリア中心であった従来のキャリアの概念を新たな枠組みで捉え直すこと、参加者が研修の成果を地域に持ち帰って実践し振り返り、さらなる事業や活動へ活かすという実施サイクルに結びつくことを考えたプログラムとなっていることがあげられる。

プログラムの対象、目的、目標、内容、方法を全体図としてまとめたプログラムデザインおよび各プログラムの目標については表1のとおりである。

#### 実施概要

本研修は平成23年11月16日～18日に、2泊3日の日程で実施された。参加者は、女性関連施設・社会教育施設職員等33名、団体・グループ・NPOのメンバー30名、大学等キャリア教育支援者12名、合計75名であり、幅広い立場からの参加があった。実際のプログラムの内容および日程は表2のとおり（講師の所属は、実施当時のもの）である。

1日目は長期的視野に立ったキャリア形成支援に必要な方策や今後の方向性、会館の調査研究や実践で明らかになりつつある「複合キャリア」の概念について、講義、関係省庁による報告と討議により専門的・実践的に学んだ。

2日目には「多様なキャリアを推進する」と題し、NPO、女性関連施設、大学からそれぞれの事業や取組について事例報告を行った。午後からは「社会活動キャリアコース」「ワーク・ライフ・バランスコース」「若年層に対する支援コース」の3つのコースに分かれ、それぞれの課題を整理するためのグループ討議などにより、キャリア形成支援の必要性や現状、課題を共有した後、各自またはグループおよびペアでの共同作業によって、地域・組織に持ち帰って実践できる事業（学習）計画案を作成した。夜間の自由交流の時間にも、館内のラウンジやミーティングルームを使って自主的に計画案づくりに取り組むグループもあるほど、熱心に取り組む様子がうかがえた。

3日目は事業（学習）計画案を完成させたあと、各コースにおいて全体会での発表者（またはグループ）を選定した。全体会では各コースの代表2名（または組）

表 1 平成 23 年度「男女共同参画の視点に立ったキャリア形成支援研修」プログラムデザイン

- 【プログラムの特徴】
- ・ 複合キャリアの考え方を取り入れ、キャリア概念を捉え直す
  - ・ 男女共同参画の視点を持ち、実践力に結び付ける
  - ・ 参加者相互の情報交換・交流を通じて、関係・連携力を高める
  - ・ 実践を重視したプログラム構成
  - ・ 研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かすことを考えたプログラム

女性関連施設・社会教育施設等の職員、団体・グループ・NPO等のメンバー、大学等のキャリア教育担当教職員等	
<b>対象</b>	
<b>目的</b>	<p>1 多様化する個人のキャリアを男女共同参画の視点から社会と結び付け、長期視野に立ったキャリア形成支援のために必要な方策について学ぶ。</p> <p>2 参加者の取組や研修成果の情報交換を行い、相互の関係作りの実践を行う。</p> <p>3 「事業（学習）計画案」を作成し、参加者が取組可能な方策を明らかにする。さらに研修終了後のフォローアップ・アンケートにより活用化・実践化を図る。</p>
<b>目標</b>	<p>「基礎知識」を身につける</p>
<b>内容</b>	<p>1. 講義「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>2. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>3. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>4. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>5. 「女性情報」</p> <p>6. 「女性情報」</p> <p>7. 「女性情報」</p> <p>8. 事例研究</p> <p>9. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>10. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>11. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>12. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>13. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>14. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>15. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>16. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>17. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>18. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>19. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>20. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>21. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>22. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>23. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>24. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>25. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>26. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>27. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>28. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>29. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>30. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>31. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>32. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>33. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>34. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>35. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>36. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>37. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>38. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>39. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>40. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>41. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>42. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>43. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>44. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>45. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>46. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>47. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>48. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>49. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>50. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>51. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>52. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>53. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>54. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>55. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>56. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>57. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>58. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>59. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>60. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>61. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>62. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>63. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>64. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>65. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>66. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>67. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>68. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>69. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>70. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>71. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>72. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>73. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>74. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>75. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>76. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>77. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>78. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>79. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>80. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>81. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>82. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>83. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>84. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>85. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>86. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>87. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>88. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>89. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>90. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>91. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>92. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>93. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>94. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>95. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>96. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>97. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>98. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>99. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p> <p>100. 実践「キャリア形成支援の必要性」</p>
<b>方法</b>	<p>講義</p> <p>実践</p> <p>ワークショップ</p> <p>報告と討議</p> <p>報告と質疑</p> <p>ワークセッション</p> <p>まとめ</p>

Ⅲ NWEC 実践報告

による計画案の発表を行い、コメンテーターからの講評を全体で共有した。

表2 平成23年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」日程表

11/16 (水)	13:00 ~ 13:20	開会
	13:30 ~ 14:30	講義「社会の変化とキャリア形成支援の必要性～男女共同参画の視点から～」 講師：天野正子 東京家政学院大学学長
	14:45 ~ 16:00	報告・討議「国のキャリア形成支援施策の最新動向と課題」 講師：松崎和之 内閣府男女共同参画局推進課課長補佐 講師：笹井弘之 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課課長
	16:15 ~ 17:00	調査報告と討議 講師：中野洋恵 国立女性教育会館研究国際室長・主任研究員
	17:15 ~ 18:00	「女性情報ポータル Winet 紹介および女性教育情報センター見学」 (＊希望者のみ参加)
11/17 (木)	9:00 ~ 11:00	事例報告とインタビュー「多様なキャリアを推進する」 コーディネーター：石崎裕子 国立女性教育会館事業課専門職員 「社会活動キャリアの促進と地域人材の活用」 事例報告：加藤せい子 特定非営利活動法人吉備野工房ちみち理事長 「機関連携によるキャリア形成支援プログラム」 事例報告：小川洋子 財団法人しまね女性センター専門員 「長期的視野に立ったキャリア形成支援」 事例報告：大津 晶 小樽商科大学商学部准教授
	11:15 ~ 12:00	事例研究「キャリア形成支援プログラムの実際」 報告者：野依智子 国立女性教育会館研究国際室研究員
		●コース別ワークショップ共通 <Ⅰ 社会活動キャリア支援コース> 【計画案テーマ】社会活動キャリア、NPO 活動、地域づくりなど アドバイザー：西山恵美子 国立女性教育会館客員研究員 学習支援：金子亜弥 国立女性教育会館事業課専門職員  <Ⅱ ワーク・ライフ・バランスコース> 【計画案テーマ】ワーク・ライフ・バランス、再チャレンジ、起業など アドバイザー：福田紀子 台東区立男女平等推進プラザ コーディネーター 学習支援：森下敏広 国立女性教育会館事業課専門職員

		<p>&lt;Ⅲ 若年層に対する支援コース&gt;  <b>【計画案テーマ】</b> 大学生へのキャリア形成支援プログラムなど                  アドバイザー：上西充子 法政大学キャリアデザイン学部准教授                  学習支援：佐國 勝 国立女性教育会館事業課専門職員</p>
	13:15～ 14:45	●コース別ワークショップ 課題整理のためのディスカッション
	15:00～ 17:00	●コース別ワークショップ 事業（学習）計画案づくりⅠ
11/18（金）	9:30～ 11:00	●コース別ワークショップ 事業（学習）計画案づくりⅡ
	11:20～ 12:05	全体会
	12:05～ 12:20	振り返り
	12:20	閉会



写真1 報告・討議「国のキャリア形成支援施策の最新動向と課題」の様子



写真2 コース別ワークショップの様子

## 研修の成果と課題

研修直後の参加者アンケートでは、「自分が今取り組んでいる事業に直接活かせると感じる事ができた」「事業計画案づくりは苦勞したが、良い経験となった」等の意見があがった。さらに研修の成果を問う項目に対する回答は「男女共同参画の視点を学ぶ事ができた」94.9%、「多様なキャリア形成支援の現状と課題を把握する事ができた」95.3%、「多様なキャリア形成支援の必要性とその役割、今後の支援の方向性について知ることができた」95.0%、「地域・組織で多様なキャリア形成を支援するための事業（学習）計画のヒントを得ることができた」94.9%など、いずれも高い数値となっており、研修の目的はほぼ達成できたといえる。また事業（学習）計画案づくりを行った「コース別ワークショップ」の有用度がその他のプログラムよりも非常に高い（100.0%）評価を得た。

研修中に作成された事業（学習）計画案は、社会活動キャリアコース5件、ワーク・ライフ・バランスコース13件、若年層に対する支援コース14件、合計32件（2日までの部分参加だったため未完成となった3件を含む）であった。この計画案に書かれたテーマ、ねらい、対象、内容、連携先の記述の有無などについて、特徴となるキーワードを拾い出すなどの整理を行った。このうち、テーマに関するキーワードの主な内容は以下のとおりである。

### 【社会活動キャリアコース】

地域人材、男女共同参画の視点など

### 【ワーク・ライフ・バランスコース】

キャリア・アップ、自己ブランド化、自立支援、就業継続、定年後男性の地域参画など

### 【若年層に対する支援コース】

キャリアデザイン、ロールモデル、就業力・社会人基礎力、多様な選択、ピア・サポートなど

事業の対象については、女性14件、男性に限定2件、両方10件であった。特に記述のないものも6件あったが、性別を限定するものではなかった。連



携先の記述については、32件中23件は単独の機関・組織での実施ではなく、他機関・組織との連携を想定して企画されていた。

また事業実施から約6ヵ月経過した平成24年5月に、全参加者のうち事業計画案を作成した者を主な対象者とし、45名に対してフォローアップ・アンケートを実施したところ、32名から回答を得た。「研修内容の報告・説明」を行ったものは回答者の81.3%であった。また「女性のキャリア形成支援事業の企画・運営・実施に活用」という設問に対しては、22年度は60.7%であったが、23年度は18.8%とかなり低い数値となった。実際に作成した事業(学習)計画案のその後の取組み状況について問う設問では、女性関連施設やNPOの開催するフォーラムでの一コマとして実施、委託事業の公募に向けて企画中等など、実施に向けた内容の記述がある一方、次年度の事業計画に組み込まれなかった、部署が変わり組織のなかで実施に向けた働きかけができなかった、という記述も見られた。また、キャリア形成支援の事業にはむすびつかないものの、事業(学習)計画案づくりのプロセスを体験したことが他の事業企画の際に役に立った、という意見もあった。これらの自由記述から、なかなか具体的な事業化までは進んでいないが、研修結果は何らかの形で参加者の業務や活動に活かされている様子がうかがえる結果となった。

以上から、本研修は会館の調査研究、プログラムを踏まえた内容の研修となっており、先駆的・モデル的研修となったといえる。研修内容は講義だけでなく、ディスカッションおよびワークショップ形式などの参加型学習を多く取り入れたことにより、参加者が自らの課題に主体的に取り組むことができた。これによりプログラムは適切なものであり、研修のねらいは十分達成できたと考えられる。

23年度は「多様なキャリア形成支援」をテーマとしたが、2泊3日という期間のなかでできることには限りもある。24年度実施に向けての課題としては、参加対象・テーマをより焦点化して実施することも検討が必要である。

### 3 平成 24 年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」について

#### 企画の背景

男女共同参画社会の実現は 21 世紀の最重要課題であり、一人一人が個性や能力を十分発揮して様々な分野に参画し、活力に満ちた社会を創造するためには、職場や地域などの様々なキャリア形成の場においても、一人一人が自ら課題を見つけ、新しい知識や能力を主体的に獲得し、一人一人が社会の基盤づくりに参画していくことが求められる。第 3 次男女共同参画基本計画（平成 22 年 12 月閣議決定）でも「第 11 分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」は重点分野となっており、「第 14 分野 地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」においても、「男女共同参画についての意識啓発を更に進めるとともに、課題解決型実践的活動への移行を推進する」ことが基本的考え方として示されている。

女性のキャリア支援に関する施策としては、文部科学省による女性のライフプランニング支援に加え、平成 24 年度からは「男女共同参画社会の実現の加速に向けた学習機会充実事業」として、女性人材の育成に必要な体系的な学習プログラムの検討と好事例の収集、地域課題の分析のために、①地域づくりに参画する女性人材の育成のための学習機会の充実、②男女共同参画の視点からの多様なキャリア形成支援の 2 点の事業を展開している。また女性の職業キャリア形成支援につながる施策としては、平成 24 年 6 月に女性の活躍による経済活性化を推進する関係閣僚会議による『『女性の活躍促進による経済活性化』行動計画 ～働く「なでしこ」大作戦』が報告されている。このなかでは、「2. 思い切ったポジティブ・アクション」として、「将来、希望の職業に就職し、結婚や育児等のライフイベントを踏まえた人生設計（ライフプランニング）が行えるよう、学校教育における早い段階からライフプランニング支援を含むキャリア教育を保護者への意識啓発を含め推進する」ことが盛り込まれている。このように、国の施策としてもキャリア形

成支援、キャリア教育への理解と実践の重要性は更に増していることがうかがえる。

国立女性教育会館の中期目標および業務運営に関する計画（平成24年度）との関連においては、『Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置、Ⅱ 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラムの開発・普及』のうち「(2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施」として、この「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」が位置づけられている。

### プログラム作成の観点とねらい

本研修での「キャリア」とは、個人のキャリア形成と社会とのつながりを踏まえ、「個人のライフイベントの単なる連なりや軌跡ではなく、社会の中で個人が果たす役割の発展過程」（引間・佐國 2011）として捉えている。プログラムの企画に当たっては、社会的背景や国の施策、23年度の研修の成果と課題を踏まえて、以下の点に留意した。

- ・参加型の学習をより効果的に行うため、テーマを設定し、参加対象者と定員を絞る。
- ・過去の研修参加者による事業計画案の実施報告の場を設け、学習の循環をすすめる。
- ・2泊3日の宿泊型研修とし、参加者同士の情報交換と交流の場を提供する。

会館で実施する研修においては、参加者の学習の循環を促進するため、研修の成果を地域・組織に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かすというPDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルに結びつくことを意識したプログラムとしている。グループディスカッションやワークショップなどによる参画型学習を多く取り入れ、参加者が学んだことを振り返り、その中から気づいたこと、学んだことを実生活へ応用できるまでの学習の循環をつながられるように留意した。

以上から、本研修の目的は以下の3点とした。

- 1 男女共同参画の視点から、女性の活躍推進のための多様なキャリア形成支援の現状と実態を把握し、キャリア形成の支援者としての力量形成をはかる。
- 2 課題解決に向けての実践力・連携力・関係力などをつける。
- 3 事業（学習）計画書の作成から参加者が取組可能な方策を明らかにし、研修の成果の活用化・実践化を図る。

キャリア形成支援のなかでも、支援が求められている対象や内容は多様である。今回の研修では、支援を必要としている当事者への個別の課題に対応する学習プログラムに対し、そのプログラムをいかに地域・組織で展開していくか支援者のための人材育成プログラムと位置づけ、キャリア形成支援に対する基本的情報の他にプログラムを企画・実施していくオーガナイザーとしての力量形成を図ることもねらいとなっている。

### プログラムデザイン

研修の目的とねらいを踏まえて作成したプログラムデザインは表3のとおりである。

プログラムデザインに即した目標ごとの内容と研修方法は以下のとおりであるが、本稿執筆時は企画の段階であり、実施にあたっての調整の結果、実際の研修の内容とは異なる場合があることを了承されたい。

#### 目標1 情報収集の方法を知る

「女性情報ポータル Winet 紹介および女性教育情報センター見学」では、会館が運営している女性情報ポータル Winet を使った情報収集の方法を紹介し、女性教育情報センターを見学する。

#### 目標2 男女共同参画の視点を学ぶ

講義「男女共同参画社会における女性の活躍とキャリア形成支援」により、男女共同参画の視点から、社会の中での女性の活躍推進に

表3 平成24年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」プログラムデザイン(案)

【プログラムの特徴】  
 ・複合キャリアの考え方を取り入れ、キャリア概念を捉え直す  
 ・男女共同参画の視点をもち、実態把握・課題分析を行い、実践力に結び付ける  
 ・参加者相互の情報交換・交流を通して「関係・連携力」を高める  
 ・研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かすという実働サイクルに結びつけることを考えたプログラム

対象	女性関連施設・社会教育施設等の職員、団体・グループ・NPO等のメンバー、大学等のキャリア教育担当教職員等				
目的	1. 男女共同参画の視点から、女性の活躍推進のための各種なキャリア形成支援の現状と実態を把握し、キャリア形成の支援者としての力量形成をはかる 2. 課題解決に向けた実践力・連携力・関係力を高める 3. 事業(学習)計画家の作成から参加者が取組可能な方策を明らかにする。さらに研修終了後のフォローアップ・アンケートにより活用化・実践化を図る。				
目標	情報収集の方法を知る	実態把握と課題分析	課題解決に向けた実践力	実践活動へのつながり	
内容	① 講義 「男女共同参画の視点における女性の活躍」とキャリア形成支援」 ○男女共同参画の視点の中での女性の活躍推進 ○長期的な視野でのキャリア形成 ② 実態把握 「国の最新動向の把握」 ○関係自治体のキャリア形成支援施策の最新動向について把握する ○国家戦略推進、女性科推進「男女共同参画社会」の実現に貢献に向けた学習機会を事業	③ 調査報告 ○場合キャリア・社会活動キャリア概念の整理と調査報告 ○キャリア形成支援プログラムの実態把握 ④ 実践事例報告 ○事例報告から今後の方向性と課題を学ぶ ・地域・教育機関による実践事例 など	④ グループ討議 9. キャリア形成支援プログラム ○講義、事例報告の現状、課題、社会人の現状、課題、ニーズを整理する ⑤ 実践事例報告 ○事例報告から今後の方向性と課題を学ぶ ・33年実践事例参加者の現状、課題、ニーズを整理する ・地域・教育機関による実践事例 など	⑥ 10. 12. 事業(学習)計画書の作成 ○自己調査での実践を踏まえたキャリア形成支援プログラムを作成する ・男女共同参画の視点 ・対象者、内容、手法の選定 ・情報交換 ・計画書の精緻化 ⑦ 19. 社会(女性)の現状把握 「女性の活躍推進とキャリア形成支援」は!」 作成した事業(学習)計画書を発表し、互いに評価する ・事業(学習)計画書今後の方向性と課題を探究する	⑧ 事業(学習)計画書 ○参加者が取組可能な方策を明らかにする ⑨ 次年度以降 ○実践の「見える化」を図る ○実践の「見える化」を図る
方法	講義	報告と質疑	討議・ワークショップ	まとめ	

「アクション・プランニング」  
 実行 Do  
 評価 Check  
 改善 Action

参加者の知見・大学等に持ち帰って実践・活動に結びつける

個人への影響  
社会への影響

に向けたキャリア形成支援のあり方を考える。

目標 3 国の最新動向の把握

関係省庁のキャリア形成支援施策の最新動向について把握し、今知りたい国の動向やポイントを探る。

目標 4 実態把握と課題分析

- ・複合キャリアの概念を理解する

「複合キャリア」「社会活動キャリア」の考え方、調査研究についての報告を聞き、キャリア形成支援についての課題等について意見交換を行う。

- ・実践事例からキャリア形成支援の現状と課題を知る

講義や事例報告等から受けた課題と参加者自身の取組とを結び付け、事業（学習）計画案づくりに向けて、個人の課題と社会の現状・課題・ニーズとの共通点や差異を明らかにし、実際の支援プログラム作成や現状の理解に向けて課題を整理する。

目標 5 課題解決に向けた実践力

- ・キャリア形成支援プログラム案作成のための視点と手法を学ぶ

自組織での実施を想定したキャリア形成支援プログラム案を作成する。これまでの講義や事例報告等を踏まえ、男女共同参画の視点から対象者、内容、手法を設定し、ディスカッションやグループワークを通して計画案の精緻化をめざす。

研修最終日の「全体会」では、それぞれのコースで作成された事業（学習）計画案を発表し、全体で共有する。また、各コースの報告から、キャリア形成支援者として求められるものは何か、今後の方向性と課題を探る。

目標 6 実践活動へのつながり

- ・研修の成果を地域に持ち帰って実践・活動に結びつける

研修終了約6ヵ月後、参加者が研修成果を地域・組織に持ち帰って、どのように地域・組織で活用しているのか、フォローアップアンケート

トを行う。ここまです研修の一環とすることで、参加者が、研修のPDCA サイクル、学習の循環をより意識することをねらいとする。

#### 4 今後の展開と課題

地域や組織のなかで、男女共同参画の視点とキャリア形成意識の基盤をつくり、展開するためのオーガナイザーを育成することは、学習の循環を促進するうえでも重要である。また個人のキャリアパスは多様性を増しているも、キャリア形成・キャリア開発における課題解決の方法や問題の構造は共通するところがあるのではないだろうか。現実には計画をしている間にも動いていく。「今・ここで」の課題を動的に捉え、振り返り、一般化し、実社会への応用を目指す体験学習のサイクルを取り入れることで、より実情や課題への柔軟な対応ができる。

また、本年度は3年計画の2年次として、本研修の実施と共に、地域の女性関連施設等と協働して、地域の実情に応じた学習プログラムを開発することを目標に、学習プログラムのモデル的实施に向けて協働で準備を進める予定である。研修実施6ヵ月後の平成25年7月をめどに行うフォローアップ調査の結果もふまえ、これらの研修の活用・成果をはかるとともに、実施に向けてさらに検討を深めていきたい。

#### 参考文献

- 国立女性教育会館 2007『国立女性教育会館 開館30周年記念誌』  
国立女性教育会館 2009『連携・協働を推進しつつ、地域づくりに参画するために（女性関連施設に関する調査研究報告書 平成20年度）』  
引間紀江・佐國勝 2011「男女共同参画の視点に立ったキャリア形成支援研修」『NWEC 実践研究』第2号 137-143

(ひきま・のりえ 国立女性教育会館事業課専門職員心得)